

# あじさい



第 92 号

2017 年 7 月

日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>

# 今年のクロツラヘラサギ

松阪市 吉崎 幸一

クロツラヘラサギは東アジアにのみ分布するという世界的な絶滅危惧種である。中勢部にもほぼ例年とっていいほど河口などに4月初旬にやってくるが、たいてい1羽が飛来し短期間で抜けてゆく。今年(2017年)も4月になりクロツラヘラサギが見られることを期待してこれまで見かけたことのある場所を探していると4月29日に、河口近くの海岸に2羽のクロツラヘラサギがいた。他のサギ類も餌を捕っていたが、体形が違うのですぐにわかった。2羽は互いに近づいたり遠ざかったりして餌を探していた。「今年はここにいたのか」との思いであった。かなり潮が引いており距離は離れていた。

そのあと途中であった人に夕刻になると近くの海岸のテトラの所で見られるとの話を聞いた。所用を済ませ、夕方4時半頃その場所に来てみると、テトラの上に先ほど見かけた2羽のクロツラヘラサギがおり、数名のバーダーが撮影していた。2羽と



も色の濃さは違うが胸のあたりが黄色みを帯びており夏羽の特徴を示している。黄色みの薄い個体は頭を体にうずめ、顔が見えない。頭を上げている方の後頭には長めの冠羽が見られ、その冠羽は風が吹いてくると逆立って立派で美しかった。冠羽にも若干黄色みを帯びている。冠羽はコサギなどの繊細な羽毛のような感じではなく一枚一枚の羽が太い毛糸のような感じである。目先と上嘴の先端近くが薄黄色の部分少し見られる。眼はルビー色を濃くしたような濃赤色である。時々頭を下げ、嘴を前へ伸

## 目次

今年のクロツラヘラサギ	2
表紙の言葉	2
「鈴鹿青少年の森 探鳥会 & 交流会」報告	4
我が家の庭から (とり鍋)	4
フクロウの巣箱	6
事務局からお知らせ	6
ついに野鳥の会に入りました!	6
チュウヒサミットのご案内	7
シギ・チドリの年齢・季節による羽衣の変化	
ダイシャクシギとハウロクシギ	8
日本野鳥の会三重の2017年度総会	12
日本野鳥の会三重 2017年度 予算書	14
今後の探鳥会予定	15
事務局だより	15
野鳥記録	16
鈴鹿市野鳥観察会 (青少年の森探鳥会) 記録	20
探鳥会報告	20
編集後記	24

## 表紙の言葉

つゆ草とスズメの親子 松阪市 小野新子

昨年から庭の巣箱でスズメが子育てをするようになった。

家を建てた時岩手の友達が、宮古野鳥の会が開発した「宮古式巣箱」を送ってくれた。円筒形で素焼きの優れものなのだが、その良さが分からなかったのか15年間誰も使ってくれなかった。それが何があったのか昨年から急に雀が使い始めた。3月頃から巣材を運び8月頃まで立て続けにこの巣箱で3回子育てをした。(私としてはシジュウカラに使ってほしかったのだけど・・・)

今年も4月27日に巣箱から「シュリッ・ジュリッ」とヒナの声が聞こえ5月5日に2羽が巣立った。親鳥がいない時巣箱の蓋を取って、そ〜と中を覗いてみたら藁がぎっしり詰まっていた、ヒナの姿は見えない、想像していたのとちょっと違っていた。子育てに、生きることにはたすらな雀の親子の姿に癒やされている。

ばし「伸び」をするかのように少し翼を広げるポーズも見せる。翼を広げると、羽の先端に黒い部分が見られ、翼の端の羽ほど黒い部分が広く3枚目位の羽ではわずかに黒い部分があるだけである。手元の図鑑の若鳥ほど黒い部分は広くない。より成鳥に近いのであろうか？クロツラヘラサギの黒色の足にはダイサギと違って細かい模様が見え、種による違いがあることがわかる。1羽のダイサギがクロツラヘラサギの近くに飛んできたなら嫌がっているのか威嚇するようなしぐさをする。陽が傾き少し光が赤味を帯びてきたので、明日また来ることにして観察を切り上げた。

翌朝6時過ぎに来てみたが、テトラの上にも周辺の海にも姿はなかった。抜けてしまったのか、どこかに餌でも捕りに行ったものと思われた。昼過ぎに昨日姿を見た海岸でクロツラヘラサギが餌を捕っているのを見つけたが1羽のみであった。干潟から浅瀬を歩きながら餌を探していた。昨日のテトラの所で待っていると1時間近くして、海の上の目線より少し高い高さでテトラに向かって飛んできて、近くの浅瀬に降りた。しばらく佇んでいたが潮位が上がって体に海水が触れるようになると再び飛んでテトラの上に移動した。餌を探している時もテトラに来たのも1羽だけで、もう1羽はすでにこの近辺から抜けたものと思われた。

クロツラヘラサギを2日間も近くでじっくり見られるとは考えてもいなかったし、しかも1日目は2羽同時に観察でき、個体差があることも知ることができた。このような観察ができたことに対しある意味自然の有難さと大切さを感じた。今後もこのような感動を感じられる機会を得たいと思うとともに、他の人にも味わってもらえればと思う。そのためにもクロツラヘラサギが訪れてくれるような環境を維持し続けることが必要だと思う。



### クロツラヘラサギ (*Platalea minor*) について

津市 平井 正志

近縁種のヘラサギ Eurasian spoonbill (*Platalea leucorodia*) が広くユーラシア大陸とその周辺に棲息するのに対し、クロツラヘラサギ、Black-faced Spoonbill (*Platalea minor*) は東アジアのみに棲息する。繁殖地は朝鮮半島西部であり、中国沿岸でも少数が繁殖すると考えられている。岩礁に巣材を積み重ね巣とする。越冬地は中国沿岸、台湾、日本、韓国である。ベトナムやタイからも報告がある。かつては10,000羽を超える個体が記録されていたが、1988年にはわずか288羽であった、しかし、その後徐々に増加し、2016年には3,356羽が記録されている。ただし、この増加が真の個体数の増加だけではなく、調査の精度が上がったためによる可能性もある。観察される個体数は年によってかなりな幅のふれがある。

日本では主に九州と沖縄で越冬する。個体数は「モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査」により調査されている。それによると2011～2012冬季に317羽が観察されており、その後徐々に増加し、2015～2016冬季には470羽となっている。三重県では越冬例はない。渡りの途中の通過個体が毎年見られているが、ごく短期滞在するだけである。

#### (参考)

BirdLife International (2015). "Platalea minor". IUCN Red List of Threatened Species. IUCN. 2015: Retrieved 27 April 2016

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査冬期速報、環境省自然環境局生物多様性センター、2016年6月

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査冬平成27年度冬期調査報告、環境省自然環境局生物多様性センター、2015年7月

## 「鈴鹿青少年の森 探鳥会 & 交流会」 報告

玉城町 西村 泉

2017年3月20日(月・祝)鈴鹿市にある県立鈴鹿青少年の森公園で行われた探鳥会 & 交流会に会員18名が参加しました。

この日は天候に恵まれ、探鳥会は、広大な公園内を鈴鹿市の会員さんに案内していただきながら、和やかに進みました。公園内では、池周辺にたくさんのアオモジの木があって、その黄色の花がちょうど見頃で目を楽しませてくれました。

池にはたくさんのユリカモメがいましたが、カモ類は少なかったものの、まだミコアイサが残っていました。遊歩道では、普段は暗い所にいるなかなか見ることのできないアオジやシロハラがすぐそばに出てきました。

鈴鹿青少年の森は大きな木がたくさんあり、落ちたドングリを食べに数多くのイカルが下に降りていて、ゆっくり観察することができました。

この後、参加者全員が公園内の県立鈴鹿青少年の森センターの食堂に移動し昼食をとりました。



午後はセンター内の研修室に入り、自己紹介を交えながら意外な一面を披露したりと楽しいおしゃべりが続き、夕方まで会員間の交流を行いました。鈴鹿市の会員の皆様には、大変お世話になりました。

### 観察された野鳥

カワラヒワ、エナガ、カワウ、シジュウカラ、ツグミ、キジバト、オオバン、ユリカモメ、ミコアイサ、カルガモ、キセキレイ、コゲラ、ヒヨドリ、メジロ、アオジ、スズメ、シロハラ、ホオジロ、モズ、ウグイス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマラ、コサギ、カイツブリ、ジョウビタキ、イカル、ノスリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、アオサギ、ドバト 以上32種

## 我が家の庭から (とり鍋)

松阪市 小野 新子

我が家の庭のナツツバキの木の根元に、小さな土鍋を置き小鳥たちの水飲み場になっている。そこにやって来る鳥たちの様子を、暇々にのぞき見しながら楽しんでいる。

### (磯 鍋)



イソヒヨドリ♀

勝気なイソヒヨのお嬢さんの行水は、作法通りで育ちの良さを感じる。鍋の縁にとまると二口三口水を飲み、おもむろに向きを変え、まず尾羽を上下して綺麗に洗い、再び向きを変えて片足ずつゆっくり恥じらう様に水に入る。それはまるで浮世絵の美人画のような色っぽさ。ただじっと水に浸かり行水を堪能したら、水から上がり二口三口水を飲み何事もなかったように庭を歩く。そんな様子をブラインドの隙間からのぞき見している私は出歯亀気分。

### (目 白のじゃぶじゃぶ鍋)



メジロ

いつも二羽でやって来るメジロ、彼らの行水はとても激しい。小さな体で思いっきりバシャバシャするので鍋の水は瞬間に少なくなっていく。今年は6～7羽が毎日やって来て、ナツツバキの枝から輪を描くように次々と水に飛び込む、それはまるで水車がまわっているように見えかわいい。

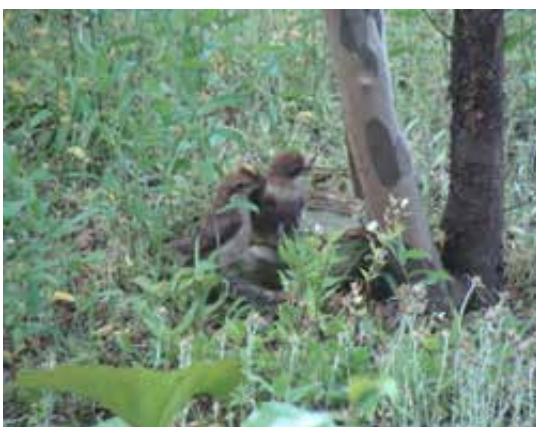
**(野 駒 鍋)**



ノゴマ♂

2013年5月の事、早朝 庭の植え込みの中でゴソゴソ赤いものが動いているのを発見。その日はコアジサシのデコイ作りのため、何人かが我が家に集まる日だった。デコイそっちのけでまずは観察会。植え込みの中から様子を見ていた彼も、昼頃には堂々と我々の前に現れ、我々も又それほど気にしなくなっていた。その日の夕方、彼は静に湯船に浸かり物思いにふけた後、意を決したかのごとく北へと旅立って行った。

**(百舌鳥のヤング鍋)**



モズの幼鳥

モズのお母さんが二羽の子供を連れて水飲み場にやって来た。まずお母さんが水浴びの手本を見せると、さっさと飛び去って行ってしまった。残された子供たちは、おっかなびっくりお互いが譲り合っ

てなかなか水に入らない。そのうち一羽が勇気をだして鍋に足を入れた。それからはもう人間の子供と同じだ。水遊びが面白くて仕方がないかのように、入れ替わり立ち代わり水に入って暫く遊んでいた。

**(眉 茶 鍋)**



マミチャジナイ

2017年3月6日、日も落ちかけた頃、彼が庭にやって来た。赤い脇腹に白い眉斑、彼の名はマミチャジナイ、一度覚えたら忘れない名前だ。二日ほど見なかったが、それからはほぼ毎日やって来て水浴びをして行く。それはまるで銭湯に通うおっさんだ。水から上がると隣のツツジの木で脇から腹から一心不乱に羽づくろい。その間ほんの5～6分、現れるのもまちまちならお帰りも早い。そして、その日まで彼の銭湯通いはつづくのだ。

**( 鶺 鴒 鍋 )**



シメ

メはシメ鍋 ついついオヤジギャグを言ってしまう彼は、2月の下旬から3月にかけて毎年庭にやって来る。気がつく庭で背筋を伸ばしてヌボーと立っている。まだ水浴びをしている所は見ることがない。ずんぐりむっくりの彼の行水はどんなだろう？ 鍋の縁に立つ彼の背中を、ちょっと押してみたくなるような…ニヒルを気取る憎めないやつ。

## フクロウの巣箱

津市 平井 正志

フクロウは三重県各地に棲息していますが、数も少なく、巣に使う樹洞が少なくなり、住宅難です。最近でもいくつかの生息地で、姿を消しています。

当会では以前に生息し、現在はいなくなっている場所のうち今回2ヶ所を選び、昨年8月末に巣箱をかけました。巣箱は会員が自作し、樹上に取り付けました。巣箱の取り付けは高所作業に熟練している方をお願いしました。むろん、地権者、土地の管理者などにも連絡し、了解を得ております。

そのうち1ヶ所で今年2羽のヒナを確認しました。ヒナは飛べる大きさになっていました。設置した巣箱を使ったかどうかの確認はありませんが、この場所ではこれまで、数年間、ヒナの誕生は見られませんでしたので、巣箱を利用して繁殖したものと判断できるでしょう。

フクロウの繁殖場所については写真撮影のカメラマンが集中し、繁殖を妨害する可能性があるため、公開することはできません。また、巣箱の設置にも地形や樹木の状況、周囲の環境など難しい点があり、どこにでも設置できるわけではありません。しかし、日本各地で巣箱の設置が進んでいます。当会でも条件を整えば、さらに設置する方針です。設置すべき場所があれば事務局あるいは、保護部に相談ください。

## ついに野鳥の会に入りました！

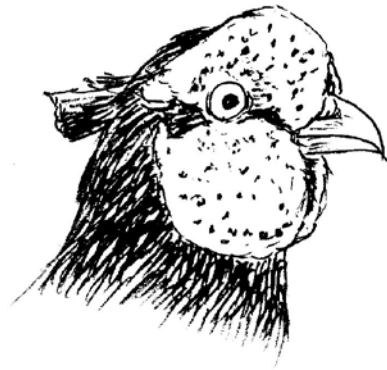
伊勢市 橋本 三千代

今、自分がわかる鳥の名前は、イカル、シジュウカラ、ヒヨドリ です。

これから、皆さんに教えていただきながら、少しづつ鳥の名前を覚えていきたいと思っています。双眼鏡や望遠鏡から観る野鳥たちは、とてもリアルで素晴らしいです。

この探鳥会を通して、平和で、穏やかなひとときを過ごせることの有難さをつくづく感じたり、日頃、人と話す機会があまりないので、皆さんとの会話も楽しんだりしています。

今後は、いつまで続けられるかわかりませんが、なるべく頑張ってお色々と参加したいと思っています。よろしくお祈りします。



キジ

## 事務局からお知らせ

◆バードメイトにご協力ください！ 1口1,000円の自然保護です。

バードメイトは、自然保護に楽しく参加していただく仕組みとして1996年から始まりました。三重では、おもに松阪市周辺の探鳥会でご紹介させていただいています。

1口1,000円のご寄付につき1個オリジナルピンバッジをお渡しします。頂いたご寄付は公益財団法人日本野鳥の会に送られ、全国の様々な自然保護活動に使われます。今年度のデザインはシジュウカラですが、今までの在庫もあります。

お気軽にお問い合わせください。(事務局：090-1566-6010)

※年度によって数が少ないものがあります。



## チュウヒサミットのご案内

生物多様性条約第10回締結国会議が名古屋で2010年に開催されました。そのパートナーシップ事業としてチュウヒサミット2010が開催されて7年が経ちました。絶滅危惧種のチュウヒの生態研究などは進みました。しかし、各地におけるチュウヒの生息環境はより厳しい状況のようです。この集会では、最新のチュウヒに関する研究などを紹介し、チュウヒの保護に役立てます。

なお、このチュウヒサミット2017は日本鳥学会津戸基金の助成を受けて開催されます。

**日時** 2017年11月18日(土) 10時から17時 終了後、懇親会を予定しています。  
**場所** 名古屋市立大学桜山キャンパス研究棟11階講義室大  
**テーマ** 日本国内におけるチュウヒの生態とその保護の進め方について  
**参加対象** チュウヒに興味のある方はどなたでも参加できます  
**参加費** 無料 ただし、資料が必要な方には資料代の負担をお願いします(1,000円程度)  
**内容**

多田英行(日本国内におけるチュウヒの生態について)  
先崎啓究(北海道におけるチュウヒの生態について)  
浦達也(環境省作成の『チュウヒの保護の進め方』について)  
各地のチュウヒ繁殖地からの報告  
チュウヒの生態についてのポスター発表(午前10時~12時)

### 午前に行うポスター発表の募集します。

形式は日本鳥学会でのポスター発表の要項に準じます。  
(ポスターはA0サイズ(横841mm×縦1189mm)以内になるようご用意ください)

### 午後に行う各地のチュウヒ繁殖地からの報告も募集します。

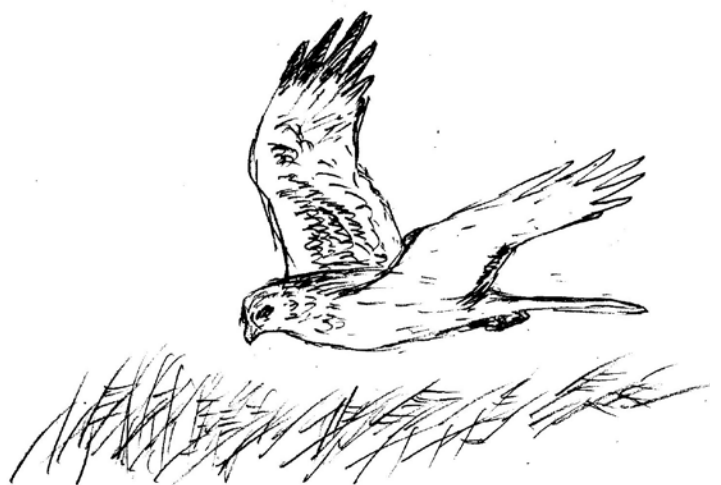
ポスター発表、チュウヒ繁殖地からの報告を希望される方は、  
下記アドレスに申し込みをお願いします。  
申込先 日本野鳥の会三重 近藤義孝 Eメール fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

追加情報などの詳細については、順次当会のHPで紹介します。

**主催** 日本野鳥の会愛知県支部  
日本野鳥の会三重  
名古屋鳥類調査会  
**共催** 公益財団法人日本野鳥の会  
**後援** 環境省(予定)  
愛知県(予定) 三重県(予定)

### 事務担当(連絡先)

日本野鳥の会三重 副代表 近藤義孝  
〒511-0123  
三重県桑名市多度町北猪飼521  
Tel 0594-48-4360  
携帯電話 090-7431-0563



チュウヒ

## シギ・チドリの年齢・季節による羽衣の変化

- 連載第 8 回 ダイシャクシギとハウロクシギ -

津市 今井 光昌

ダイシャクシギは日本に渡来するシギ類ではハウロクシギと並ぶ最大のシギで、春と秋の渡りの途中に主に海辺や河口の干潟に立ち寄ります。三重県中部での渡来数は春も秋も 5 羽を超えることは殆どありません。なお、松阪市の干潟では 2007 年から毎年、少数が越冬するようになり、ダイシャクシギの越冬地として定着した模様です。

ダイシャクシギはハウロクシギと違い海岸近くの内陸側の池や水田に入ることはまずありません。内陸側で見かければダイシャクシギでなくハウロクシギと判断できると思っていました。それは間違いでした。2012 年と 2013 年の 12 月には海が時化て内陸側に避難したわけでもないのに、休耕田でダイシャクシギが採餌していました。稀なことではあっても野鳥を生息域からのみ識別すると判断を誤ることもあります。

私は識別の便宜上、オオソリハシシギ（約 30cm）より大きいものを大型シギ、ハマシギ（約 22cm）より小さいものを小型シギ、その間の大きさのものを中型シギと呼んでいます。文中でも「大型シギ」という言葉を使いますが、そのような分類があるわけではありません。大型シギであるダイシャクシギは図鑑では約 60cm。ハウロクシギは 66cm となっていますが、体の大きさは個体差や雌雄差があり、野外での観察で両種が並んでも体の大きい方がハウロクシギとは言えません。ダイシャクシギより小さいハウロクシギも多くいるので大きさのみで両種を識別するには無理があります。



図 1 ダイシャクシギ 成鳥夏羽 2011.03.26



図 2 ハウロクシギ 成鳥夏羽 2014.03.27

ダイシャクシギとハウロクシギは体が大きく嘴が長く、下方に湾曲し、体上面の羽色も似ています。この外見の似ている大型シギ 2 種の識別は体下面が白いか、褐色味があるかになります。

図 1 のダイシャクシギを図 2 のハウロクシギと比べると体下面の白さと雨覆の羽縁がハウロクシギよりも白く太いのが分かります。ダイシャクシギは雨覆の羽縁も白味が強いのでハウロクシギよりも体全体が淡く見えます。



なお、ホウロクシギには体全体の褐色味が強い個体と淡い個体があります。図3、図4のように褐色味の淡い個体の場合、遠距離観察ではダイシャクシギに見間違い易く、識別に注意を要します。羽色は、野外では光の具合で変わって見えるし、写真でも処理の仕方によって羽色が変わります。羽色が野外で実際にどう見えるのかは観察経験を積むことで分かってきますが、両種の識別においては羽色だけでなく、他の識別点と併せ判断することが大事です。その一つはホウロクシギには脇腹に横斑があるということです。ダイシャクシギは横斑がないかあっても小さいです。また、静止時には識別上紛らわしいことがあっても、羽を広げたり飛んだりすれば両種の識別は容易になります。迷ったときは羽を広げるのを根気よく待つことです。



図3 ホウロクシギ幼鳥



図4 ホウロクシギ成鳥

ダイシャクシギ(図5a)の翼下面は風切羽を除いて白く、腹から下尾筒も白い。ホウロクシギ(図6a)は下雨覆に褐色の斑が散らばり翼下面は白く見えない。腹から下尾筒も白くありません。ダイシャクシギは背・腰・下雨覆・脇・腹・下尾筒の白さが際立ちます。



図5a ダイシャクシギ



図6a ホウロクシギ



図5b ダイシャクシギ



図6b ホウロクシギ



図7 ダイシャクシギ 幼鳥 2014.09.01



図8 ホウロクシギ 幼鳥 2016.09.05

ダイシャクシギもホウロクシギも幼鳥は成鳥に比べ嘴が短く、上面は軸斑が濃く羽縁とのコントラストが強い傾向にあります。幼鳥の渡来する9月初旬ですと成羽と比べ幼羽は摩耗が少なく羽が綺麗です。頸から腹部にかけての縦斑が細いなど両種は似ていますが、体下面と雨覆の羽縁が白いか、褐色味があるかで両種の判別は出来ます。

成鳥冬羽と第1回冬羽

第1回冬羽



図9 ダイシャクシギ 2009.11.21



図10 ホウロクシギ 2016.11.07

図9はダイシャクシギ成鳥冬羽（前）と第1回冬羽（後）ですが、体の大きさも嘴の長さもほぼ同じです。2個体とも体が小さく嘴も短いことから♂と考えられます。11月にもなると幼鳥の嘴も伸長し成鳥との見分けが嘴の長さでは難しくなります。図10のホウロクシギは雨覆・三列風切に擦れた幼羽が残っている♀第1回冬羽です。嘴が伸長し、成鳥との判別は嘴ではできません。なお、両種とも♀のほうが♂より体が大きく嘴は長いです。

### 第1回冬羽



図11 ダイシャクシギ 2010.02.02

図11は冬羽の換羽が進んだ2月のダイシャクシギ第1回冬羽です。雨覆は擦れが激しく、三列風切の一部と初列風切にも激しく擦れた幼羽が残っています。

図12aのダイシャクシギ第1回夏羽は雨覆の擦れが目立ちます。同個体が成鳥夏羽と並んだのが12bです。成鳥夏羽には雨覆や三列風切に擦れが見られず、第1回夏羽に比べ軸斑が濃く橙褐色斑が強いです。ハウロクシギも同様に図13aの第1回夏羽は雨覆と三列風切が擦れていますが図13bの成鳥夏羽には擦れが見られません。両種とも第1回冬羽、第1回夏羽では雨覆・三列風切に多くの幼羽を残しますが、成鳥は冬羽で全換羽し、夏羽でも多くの羽を換羽するようです。

### 第1回夏羽



図12a ダイシャクシギ 2011.04.05

### 第1回夏羽

### 成鳥夏羽



図12b ダイシャクシギ 2011.04.05

### 第1回夏羽



図13a ハウロクシギ 2014.05.31

### 成鳥夏羽



図13b ハウロクシギ 2011.04.14

図 14 は 7 月のハウロクシギ (左) とダイシャクシギ (右) です。夏羽後期の羽衣で各羽に擦れが見られます。図 15 は 9 月のハウロクシギ (前) とダイシャクシギ (後) です。冬羽に換羽して間もなく各羽は新しく擦れは見られません。

成鳥夏羽 2017.07.11

成鳥冬羽 2015.09.28



図 14 ハウロクシギ (左)、ダイシャクシギ (右)

図 15 ハウロクシギ (前) ダイシャクシギ (後)

**最後に** 図鑑でダイシャクシギ、ハウロクシギの画像を見ると冬羽や夏羽という記述がまずありません。それだけ羽衣からの識別が難しいのだと思いますが、両種とも夏羽は冬羽に比べ、明らかに肩羽と三列風切の羽縁の橙褐色が強いです。



## 日本野鳥の会三重の 2017 年度総会

日本野鳥の会三重の 2017 年度総会は 2017 年 5 月 28 日 (日) サン・ワーク津 (津市勤労者福祉センター) で開催されました。2016 年度活動報告、および 2017 年度活動計画が承認されました。また、2016 年度決算報告、2017 年度予算案も承認されました。また、役員も改選されました。

以下にその資料を掲載します。企画部の活動報告、活動計画は省略します。会報各号の探鳥会報告、行事案内を参照ください。なお、記載は紙面の都合で適宜省略してあります。

### 2016 年度 活動報告

#### 保護部

##### 1. 四日市市に建設予定のメガソーラー開発問題

昨年 (2016 年) 6 月に発覚したメガソーラー開発計画は、163ha (四日市ソーラー 事業 68ha+ 足見川メガソーラー事業 95ha) にも及ぶ膨大な丘陵林を伐採し自然破壊を来すもので予定地には、サシバやオオタカの生息が確認されている。当会は、地元の自治会や保護団体と共同し、事業者、県、市に対し無秩序な開発を中止するよう要望した。更に現在建設計画の中止を求める署名運動を展開中である。

6 月 18 日 (日) には、現地で臨時探鳥会を予定。

##### 2. ミヤコドリ一斉調査

冬季に 3 回の観察を行った。2016 年 12 月には 106 羽、2017 年 1 月には 138 羽、2 月には 103 羽を観察した。

### 3. 木曾岬干拓地チュウヒ保護のための活動

毎月第3土曜日午前に日本野鳥の会愛知県支部、名古屋鳥類調査会と三者合同で実施。  
2016年には、ひとつがいが繁殖し、3羽のヒナが巣立った。

### 4. ツバメの営巣の保護について

「おほらい町ツバメ探鳥会」を実施、公益財団法人日本野鳥の会からも職員が取材のため参加。

## 研究部

#### 1. ガン・カモ・ハクチョウ類調査

2016年度は県が予算措置しなかったため、会がバードリサーチと協働して実施した。

調査基準日 2017年1月15日

調査箇所：新調査地を含め183箇所

参加調査員数：33名

#### 2. モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査

春期、秋期、冬季の年3時期に実施した。

県内の調査地：一般サイト：鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、豊津浦～町屋浦、香良洲海岸、

コアサイト：安濃川河口～志登茂川河口、雲出川河口五主海岸、阪内川河口、愛宕川から櫛田川河口

#### 3. 平成28年度カワウねぐらコロニー調査（県委託） 28年度より年1回（3月）

指定された調査地（県内17か所）ねぐらに飛来するカワウの数等を調査 調査協力者13名

## 編集部

会報「しろちどり」を下記のとおり発行した。

87号 2016年6月10日 28ページ、88号 2016年9月5日 24ページ

89号 2017年1月10日 24ページ、90号 2017年4月1日 24ページ

## 事務局

#### 1. 総会・野鳥講座 2016年5月29日（日） 三重県教育会館

#### 2. 理事会

第1回 2016年5月29日（日） 三重県教育文化会館

第2回 8月29日（日） 三重県総合博物館

第3回 11月27日（日） 津市雲出市民センター

第4回 2017年3月5日（日） 津市雲出市民センター

#### 3. 平成28年度 日本野鳥の会連携団体全国総会

2016年11月12日（土）～13日（日）千葉県「セミナーハウスクロス・ウエーブ幕張」

#### 4. 日本野鳥の会 第24回中部ブロック会議 愛知

2016年10月1日（土）～2日（日） 愛知県「豊田市自然観察の森」

## 2017～2018年度（2年任期） 役員

### 理事・監事

【北勢地区】 近藤義孝、安藤宣朗、川瀬裕之、三曾田明、笹間俊秋 【伊賀地区】 前澤昭彦

【津地区】 平井正志、石原 宏、岡八智子 【松阪地区】 西村四郎、吉崎幸一

【東紀州地区】 中井節二 【南勢地区】 中西章、小坂里香、西村泉

計15名（氏名に下線は今年度からの新役員）

また、総会中に理事会を開き、役職を決定した。

代表：平井正志 副代表：安藤宣朗・近藤義孝 事務局長：西村泉 会計担当：中西章

監事：石原宏・岡八智子 保護部長：近藤義孝 研究部長：前澤昭彦 企画部長：西村四郎

編集部長：平井正志

## 日本野鳥の会 三重 29年度（2017年度）予算書

29年度 自2017年4月1日 至2018年3月31日

単位：円

科 目	29年度予算 一般・特別合算	備 考	29年度予算会計区分	
			一般会計	特別会計
< 事業高 >				
支部会費	584,000	2000円×292人	584,000	0
受託収入	788,400	カワウ調査・ガンカモ調査	0	788,400
受取補助金	0		0	0
受取寄付金	0		0	0
<b>事業高合計</b>	<b>1,372,400</b>		<b>584,000</b>	<b>788,400</b>
<b>事業利益</b>	<b>1,372,400</b>		<b>584,000</b>	<b>788,400</b>
< 事業管理費 >				
支払調査費	350,000	カワウ調査・ガンカモ調査	0	350,000
雑損費	180,000	ガンカモ調査	0	180,000
通信費	236,000	郵送料・電話料	158,818	77,182
印刷費	221,000	しろちどり発行	219,277	1,723
消耗品費	103,000		85,640	17,360
賃借料	0		0	0
会場費	77,000	チュウヒサミット	67,235	9,765
会議費	43,000	チュウヒサミット	41,277	1,723
旅費交通費	318,000	中部ブロック参加・旅行助成	270,219	47,781
支払手数料	54,000		22,983	31,017
講師謝礼金	30,000		30,000	0
図書費	5,000		2,128	2,872
諸会費	5,000		5,000	0
雑費	24,700		17,277	7,423
事務費	30,000	カワウ調査	0	30,000
保険料	16,000	カワウ調査・ガンカモ調査	0	16,000
<b>一般管理費合計</b>	<b>1,692,700</b>		<b>919,854</b>	<b>772,846</b>
<b>事業総利益</b>	<b>-320,300</b>		<b>-335,854</b>	<b>15,554</b>
< 事業外収益 >				
受取利息	200		200	0
雑収入	0		0	0
<b>事業外収益合計</b>	<b>200</b>		<b>200</b>	<b>0</b>
<b>当期純利益</b>	<b>-320,100</b>		<b>-335,654</b>	<b>15,554</b>
< 税金等 >				
法人税等	79,900		0	79,900
<b>税引後利益</b>	<b>-400,000</b>		<b>-335,654</b>	<b>-64,346</b>

※一般会計で335,654円の赤字、特別会計で64,346円の赤字、差引税引後利益は△400,000円となる。

(総会記事続き)

## 2017年度 活動計画

### 保護部

1. 足見川メガソーラーの取組: 署名運動などを実施する。
2. 木曾岬干拓地のチュウヒ保護活動
  - ・毎月第3土曜日午前にチュウヒ繁殖、生息状況調査を実施。
  - ・チュウヒサミット 2017 を開催予定  
11月18日(土) 午前10時より、会場:名古屋市立大学
3. ミヤコドリ三重県一斉調査: 冬季に実施予定

### 研究部

2016年度同様 ガン・カモ・ハクチョウ類調査、シギ・チドリ類モニタリング調査、カワウねぐらコロニー調査を計画

### 編集部

2017年度も昨年度同様、「しろちどり」を4号発行する。  
オールカラーの編集は維持する。

### 事務局

1. 総会 2017年5月28日(日) サン・ワーク津(津市勤労者福祉センター)
2. 理事会
  - 第1回 2017年 5月28日(日) サン・ワーク津(津市勤労者福祉センター)
  - 第2回 8月20日(日) 場所未定
  - 第3回 11月26日(日) 場所未定
  - 第4回 2018年 3月11日(日) 場所未定
3. 日本野鳥の会連携団体全国総会 参加予定
4. 日本野鳥の会 第25回中部ブロック会議 参加予定

## 事務局だより 活動の記録 (2017年3月～5月まで)

- 2017/3 : 2016年度決算作業  
2016年度各部活動報告まとめ  
県委託平成28年度カワウねぐらコロニー委託調査
- 3/18 : レッドヒルヒーターの森「里山探検隊」下見  
3/25 : レッドヒルヒーターの森「里山探検隊」に協力
- 4/ 1 : 会報 しろちどり第91号 発行・発送作  
4 : 2017年度予算 各部計画書作成
- 5/ 3 : メナード青山リゾート 探鳥会に協力  
5/ 7 : 2016年度会計監査



ホオジロ

## 今後の探鳥会予定 (詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)

- 7月23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
集合/9:00 弥富野鳥園 解散/12:00 集合地
- 8月19日(土) 揖斐川ツバメのねぐら入り探鳥会  
開催地/桑名市 多度町福永  
集合/16:00 桑名市役所多度総合支所前駐車場 解散/19:00 集合地

● 8月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、7月23日と同じです。

● 9月10日(日) 五主探鳥会 少雨決行!

開催地 / 松阪市 五主海岸

集合 / 9:30 雲出川右岸河岸 五主海岸コーナー 解散 / 11:30 現地

● 9月12日(火) 海蔵川探鳥会

開催地 / 四日市市西坂部 海蔵川沿い

集合 / 9:40 海蔵川代官橋 北詰 解散 / 12:00 集合地

● 9月23日(日) 多度山タカ渡り探鳥会

開催地 / 桑名市 多度山三合目

集合 / 9:00 多度山登山口駐車場 解散 / 12:00 集合地

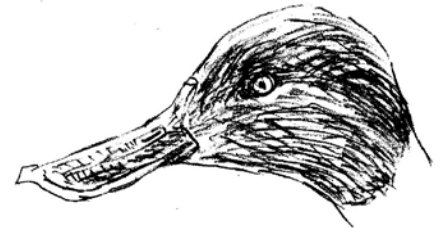
● 9月24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、7月23日と同じです。

● 9月30日(日) 伊勢タカ渡り探鳥会

開催地 / 伊勢市 伊勢やすらぎ公園

集合 / 7:00 やすらぎ公園納骨堂前 解散 / 11:00 集合地



ハシビロガモ



## 野鳥記録 (2017年2月21日から5月30日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所 (三重県)	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
ツバメ	1	2017年 2月 25日	四日市市 西坂部町海蔵川	初認	安藤 宣朗	1
ウグイス	1	2017年 2月 25日	四日市市 西坂部町海蔵川	雄 初認	安藤 宣朗	2
ハヤブサ	1	2016年 12月 18日	伊賀市 上野森林公園	成鳥 雌	玉田 浩司	3
ミヤマホオジロ	8	2016年 12月 18日	伊賀市 上野森林公園	雄 4羽 雌 4羽	玉田 浩司	4
ツクシガモ	5	2017年 2月 28日	松坂 五主海岸	成鳥	米倉 静	5
マミチャジナイ	1	2017年 3月 6日	松阪市 嬉野中川新町	自宅庭にて	小野 新子	6
イソヒヨドリ	1	2017年 4月 8日	四日市市市場町	雌	三曾田 明	7
センダイムシクイ	1	2017年 4月 15日	津市榊原町 榊原湖周辺林道	初認	前田 聡	8
ノビタキ	1	2017年 4月 13日	松阪市嬉野町 須ヶ瀬地内 ライスセンター東	雄 幼鳥? 初認	前田 聡	9
トラツグミ	1	2016年 12月 29日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	10
コサメビタキ	1	2017年 4月 15日	伊賀市 上野森林公園	初認	玉田 浩司	11
マミチャジナイ	1	2017年 3月 6日	松阪市 嬉野中川新町	雄	小野 新子	12
ノジコ	1	2017年 4月 29日	菟野町 三重県民の森	雌	三曾田 明	13
コサメビタキ	7	2017年 4月 23日	菟野町 三重県民の森		玉田 浩司	14



野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所（三重県）	雄 / 雌 / などの 区別	記録報告者 名	脚注
エナガ	10	2017年4月26日	三重郡菟野町菟野	幼鳥	矢田 栄史	15
サンコウチョウ	1	2017年5月5日	四日市市 垂坂公園	雄	今西 純一	16
ジュウイチ	1	2017年5月7日	四日市市 垂坂公園	幼鳥	今西 純一	17
ムナグロ	2	2017年4月1日	御浜町下市木 水田	初認	清水 勝海	18
ツバメ	1	2017年2月26日	紀宝町井田 上野	初認	清水 勝海	19
ホシムクドリ	1	2017年2月20日	熊野市久生屋町	冬羽	中井 節二	20
ギンムクドリ	3	2017年2月20日	熊野市久生屋町	雄2羽 雌1羽	中井 節二	21
ヤツガシラ	1	2017年4月18日	南牟婁郡紀宝町		中井 節二	22
ゴイサギ	55	2017年4月20日	熊野市久生屋町	成鳥 幼鳥	中井 節二	23
ツバメチドリ	3	2017年4月11日	御浜町志原		中井 節二	24
コシャクシギ	1	2017年4月30日	御浜町市木		中井 節二	25
ギンムクドリ	1	2017年5月10日	御浜町市木	雌	中井 節二	26
ツツドリ	3	2017年5月10日	菟野町 三重県民の森		矢田 栄史	27
タヒバリ	1	2017年4月15日	南牟婁郡御浜町志原		中井 節二	28
ハジロカイツブリ	1	2017年4月16日	志摩市阿児町 甲賀	夏羽	森口 道夫	
ツバメチドリ	3	2017年4月17日	志摩市 磯部町下之郷		森口 道夫	
ツバメチドリ	3	2017年5月8日	志摩市 阿児町甲賀		森口 道夫	
ノジコ	2	2017年4月18日	志摩市 阿児町甲賀	雌雄各1羽	森口 道夫	
マガン	1	2017年4月22日	志摩市 磯部町穴川	24日まで滞在	森口 道夫	
ギンムクドリ	2	2017年4月22日	志摩市 阿児町鶴方	26日まで滞在 雌雄各1羽	森口 道夫	
タマシギ	2	2017年4月23日	志摩市 阿児町鶴方	雌雄各1羽繁殖	森口 道夫	
	2	2017年5月8日	志摩市 磯部町下之郷	雌雄各1羽	森口 道夫	
	11	2017年4月17日	伊勢市村松町	19日には9羽	中村 悦子	

#### 脚注：

1. 今期初認 上空に1羽のツバメを発見した。
2. 今期初めて「ホーホケッキョ」を聞いた。
3. 12月18日に確認。1月18日までは観察できたがその後観察できなかったのが1月18日を終認としました。
4. 2月26日、オスのさえずりを確認。昨年は4月11日が終認、今年の終認は未確認。
5. ソーラーパネルをこの池2面に8月までに貼る予定との事（作業中の人から聞く）。
6. 6日夕方 庭のコケをほじくっているのを確認。7日午前9時頃から午前中庭で餌を探していた。
7. 普通種ですが、海から直線で10km以上離れているところなので報告しておきます。
8. 車を走行中に、鳴き声と枝渡りする姿を発見、今期初認であった。
9. 小川の上空の虫を取りながら、木の枝やススキ、草などのてっぺんに立ち止まる姿を発見、今期初認。
10. 渡来直後はピラカンサの実をよく食べていましたが、2月頃からは開けた場所で虫やミミズを食べていました。
11. 年の初認は4月20日でした。つぶやくようなブチブチと言うさえずりを聞かせてくれました。
12. 午後から夕方にかけてやって来て、庭のコケの下のみみずや虫を食べたり、ヒヨドリが落としたキンカンを食べたりしていた。水飲み場で水浴びもよくしていた。
13. 県民の森では見かけない鳥なので、しばらくそこで「何の鳥だろう」と皆首をかしげていました。
14. コサメビタキを観察していたらひらひらと飛んでいき、ついたところが巣でした。
15. 2月26日に親鳥がコケをくわえてるところを観察仲間が目撃していました。4月25日朝にぎやかな声がして巣だちを確認。

16. 囀りが聞こえたため足を止めて見上げると、かなり高い木の上にとまっていた。囀ったのは1度きりで翌日、翌々日には観察できませんでした。渡りの途中に立ち寄ったのだと思います。
17. 林の中から声が聞こえたため探したところ、やや低い場所で鳴いていました。胸部から腹面にかけて縞があることから幼鳥と判断しました。5/5のサンコウチョウ、5/7のジュウイチともに垂坂公園では初めて観察。
18. 今季初認
19. 今季初認
20. 下側はムクドリ上がホシムクドリです。嘴が細く腹にハートのマークがあった。
21. ムクドリとホシムクドリの群れにいた。
22. 私の知り合いの家の庭に、飛来しました。山口和洋さん宅です。
23. ゴイサギが55羽もいる事があまりないと思いますので投稿します。最高の記録は55羽ですが、遠いためホシゴイが何羽いるかわかりません。5月10日現在でもホシゴイが、少し残っています。
24. 市木でも4月24日に3羽見えています。また日付は、わかりませんが、阿田和でも1羽見えています。
25. 当地方では18年ぶりです。たった1日しかいませんでした。嘴が短く体が、小さかった。
26. 田んぼの畦を歩いていた。
27. 1週間ほど前から県民の森にて複数の声は聞いていた。観察中に大きめの幼虫を3回食べたり、そばにほかの個体が接近したりした。メスをめぐる争いかもわからない。
28. 夏羽でこれほど赤い個体は、初めてなので投稿します。



脚注 12 マミチャジナイ：小野新子 撮影



脚注 14 コサメビタキ営巣：玉田浩司 撮影



脚注 25 コシャクシギ：中井節二 撮影



脚注 13 ノジコ：三曾田明 撮影



脚注 26 ギンムクドリ♀：中井節二 撮影



脚注 34 ギンムクドリ♀：森口道夫 撮影



脚注 30 ツバメチドリ：森口道夫 撮影



脚注 32 ノジコ♂♀：森口道夫 撮影



脚注 33 マガン：森口道夫 撮影

## 鈴鹿市野鳥観察会

### (青少年の森探鳥会) 記録

鈴鹿市ではこれまで当会会員の協力の下にいくつかの野鳥観察会(探鳥会)を開催しています。鈴鹿市の了解を得て、その記録を掲載します。また、青少年の森以外でも探鳥会が開催されており、その記録は次号に掲載予定です。

なお、今後は鈴鹿市と当会の共催として開催する予定です。本年10月29日には青少年の森で探鳥会が予定されています。参加申し込みが必要です。鈴鹿市環境政策課 059-382-7954 に問い合わせください。

#### 開催場所 鈴鹿市青少年の森

2014/2/9 10:50-12:00 晴れ

リーダー市川 美代子 参加 19名(小学生2名)

マガモ、ノスリ、メジロ、ツグミ、ヒヨドリ、シジュウカラ、エナガ、コゲラ、カワウ、カルガモ、ハシボソガラス、ミコアイサ、カイツブリ、ユリカモメ、ハクセキレイ、ムクドリ、カンムリカイツブリ、オオバン、カワラヒワ 計19種



鈴鹿市青少年の森 ユリカモメ

2015/3/8 10:20-11:40 晴れ

リーダー市川 美代子

マガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、オオバン、ユリカモメ、ノスリ、コゲラ、ハヤブサ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、カルガモ、ドバト 計23種

2017/2/12 10:00-12:00 晴れ

リーダー市川 美代子 参加 30名(子供4名)

カルガモ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、コサギ、ユリカモメ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アオジ 計24種



## 探鳥会報告 (2017年2月~4月)

5月の探鳥会報告は紙面の都合により、次号に回します。

### ● 木曾三川探鳥会

2017年2月5日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

### ● 五十鈴川公園探鳥会

2017年2月19日(日)10:00~12:00

伊勢市 五十鈴公園

高木 正文 作田 久春 参加者19名(会員10名)

カルガモ、ホシハジロ、カイツブリ、キジバト、コサギ、オオバン、イカルチドリ、タシギ、イソシギ、

トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ 計32種

好天に恵まれ、参加者は19人と多かった。特に今回は会員外の方が9人と多かった。

「カワセミ」が数羽見られて、初参加の方には喜ばれた。

来年は1週間早く開催して「ウミアイサ」が見たい。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2017年2月26日(日)9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 23 名 (会員 13 名)  
キジ (1)、オカヨシガモ (10)、マガモ (10)、カルガモ (10)、ハシビロガモ (15)、コガモ (24)、ホシハジロ (4)、キンクロハジロ (9)、ミコアイサ (4)、カイツブリ (15)、キジバト (10)、カワウ (1000)、アオサギ (1)、ダイサギ (1)、オオバン (15)、タゲリ (3)、ケリ (50)、コチドリ (1)、クサシギ (1)、イソシギ (5)、カモメ (2)、セグロカモメ (1)、ミサゴ (2)、トビ (1)、チュウビ (1)、ハイタカ (1)、ノスリ (3)、カワセミ (3)、チョウゲンボウ (2)、モズ (2)、ハシボソガラス (50)、ハシブトガラス (150)、シジュウカラ (1)、ヒバリ (10)、ヒヨドリ (10)、メジロ (1)、ムクドリ (15)、シロハラ (1)、アカハラ (1)、ツグミ (100)、ジョウビタキ (5)、スズメ (100)、ハクセキレイ (3)、セグロセキレイ (2)、タヒバリ (2)、カワラヒワ (2)、ベニマシコ (2)、ホオジロ (4)、アオジ (3)、カワラバト (20) 計 50 種

今回も晴れて風も弱く探鳥会日和でした。チュウゲンボウが観察地点の近くの電柱に長く泊まってくれました。最初はメス、次にオスが観察できました。今回は 50 種とたくさん観察できました。

### ● 石垣池探鳥会

2017 年 3 月 5 日 (日) 10:00 ~ 12:00  
鈴鹿市石垣町 石垣池  
市川 美代子 近藤 義孝 参加者 22 名 (会員 11 名)  
オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、コサギ、ケリ、オオタカ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、アオジ、カワラバト 計 26 種

市の広報と中日新聞に掲載していただきましたので、会員外の方が 11 名来ていただきました。カモをじっくり見ていただきました。オオタカの若鳥が中の島 (まん中の島) にいましたが、カラスに騒がれていました。アオモジの木が数十本、西の林にありまだつぼみでしたが、見ることができました。

### ● 海辺の鳥を観察しよう

【フィールドワーク「身近な冬鳥を観察しよう」(安濃川河口探鳥会)】  
2017 年 3 月 5 日 (日) 9:30 ~ 11:15  
津市 安濃川河口 (三重県総合博物館)  
共催団体 / 三重県総合博物館

平井 正志 参加者 27 名 (会員 6 名)  
ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、カワウ、コサギ、シロチドリ、ミヤコドリ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ 計 22 種

まず、博物館内で展示を見て、鳥の体の作りや細部を観察した。その後、安濃川河口へ移動して河口の水鳥を見た。風も無く、温かい絶好の探鳥日和であった。河口には多くのカモ類がいた。家族連れで小学生も多く、まずは小学生に見てもらうのを最優先。一通り、カモの種類を見てもらおう。ミヤコドリも遠くの砂州に集結しており、これも見ってもらおう。都合よく、ウミアイサのオスが堤防のすぐ下の水面に現れ、しきりに水中を見ながらゆっくり泳ぐ。ボサボサ頭を双眼鏡でじっくり見てもらうことができた。前回の昨年 12 月の博物館共催の探鳥会では初心者が少なく、残念であったが、今回は家族連れも多く。盛況であった。



セグロカモメ

### ● 宮リバー公園探鳥会

2017 年 3 月 12 日 (日) 9:30 ~ 12:00  
度会町 宮リバー公園  
小坂 里香 杉原 豊 参加者 36 名 (会員 22 名)  
マガモ、カルガモ、コガモ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、アオサギ、オオバン、イカルチドリ、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、

シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ 計 29 種

天候に恵まれ条件は申し分なかった。また町広報への掲載もあり、町内からの非会員や子どもさんの参加も多数で、狙い通りの初心者向け探鳥会ができました。しかし人数が多すぎて目が行き届かず、また時間配分がまずくてまとめが雑になったりと反省点も多かったです。

初心者とベテランに分け、初心者班はベテラン会員数人に手伝ってもらいました。行楽の人も多く、鳥はふだんより少なめでしたが、ツグミやイカルなどをじっくり見てもらい鳥への興味も持ってもらえたと思います。

### ● 海蔵川探鳥会

2017年3月14日(火) 9:45～11:45

四日市市西坂部 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者 11 名(会員 9 名)

キジ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、バン、オオバン、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計 26 種

今年度最後の探鳥会となりました。

晴れているものの風が強く、鳥たちが見れるかやや心配しましたが、川面を見るとキンクロハジロとホシハジロが出迎えてくれました。橋の上からの定点観察も風が強いため早めに切り上げ右岸側に向かいました。早速カワセミが綺麗な姿を見せてくれ、道の上ではツグミが胸を張って辺りを警戒していました。木の枝に黒いごみ袋が引っかかっているかと思っていたら、羽の一部が白化したハシブトガラスでした。

終盤でも風は収まらず肌寒かったですが、遠くにツバメが群れで飛んでいるのを見る事が出来、春の始まりを感じることができた探鳥会でした。

### ● 余野公園探鳥会

2017年3月19日(日) 10:00～12:00

伊賀市余野 余野公園

塗矢 尋一 南 一郎 参加者 16 名(会員 10 名)

トビ、ノスリ、コゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウ

ウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、シロハラ、キセキレイ、ビンズイ、アトリ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、コジュケイ、カワラバト 計 27 種

昨年より 40 日遅い実施で鳥の種類がだいぶ多く出たが、春に近いと動きが速くあまりじっくりと見ることができない。

### ● 安濃中央公園探鳥会

2017年3月26日(日) 開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

### ● 篠田山探鳥会

2017年3月25日(土) 9:30～11:30

松阪市久保町 篠田山斎場

中村 洋子 小野 新子 参加者 13 名(会員 13 名)

キジ、キジバト、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、ホオアカ、アオジ、カワラバト、コジュケイ 計 27 種

曇り空だったが風がなく、鳥を近くで見ることができました。

ウグイスのさえずりがあちらこちらで聞こえ、シジュウカラが営巣の準備をしていました。小さな池だがカワセミがいて、最後に全員で見ることができました。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2017年3月26日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 14 名(会員 6 名)

キジ(2)、オカヨシガモ(7)、マガモ(8)、カルガモ(10)、ハシビロガモ(20)、コガモ(20)、ホシハジロ(11)、キンクロハジロ(25)、カイツブリ(3)、キジバト(20)、カワウ(50)、アオサギ(2)、ダイサギ(1)、オオバン(8)、ケリ(20)、コチドリ(1)、タシギ(3)、イソシギ(3)、カモメ(2)、セグロカモメ(1)、ミサゴ(2)、チュウヒ(2)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、モズ(2)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(25)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(10)、ヒヨドリ(6)、ウグイス(5)、ム

クドリ (10)、シロハラ (1)、ツグミ (30)、ジョウビ  
タキ (2)、イソヒヨドリ (1)、スズメ (70)、ハクセキ  
レイ (3)、セグロセキレイ (2)、カワラヒワ (20)、ホ  
オジロ (6)、カシラダカ (1)、アオジ (4)、カワラバ  
ト (5) 計 46 種

雨が降ったりやんだりのあいにくの天気でした  
が、14 名の方に参加してもらいました。天気割  
には 46 種も観察できました。カモ類や猛禽類もま  
だたくさんいました。

### ● 五主探鳥会

2017 年 4 月 15 日 (土) 9:30 ~ 11:30

松阪市五主町 五主海岸・大池

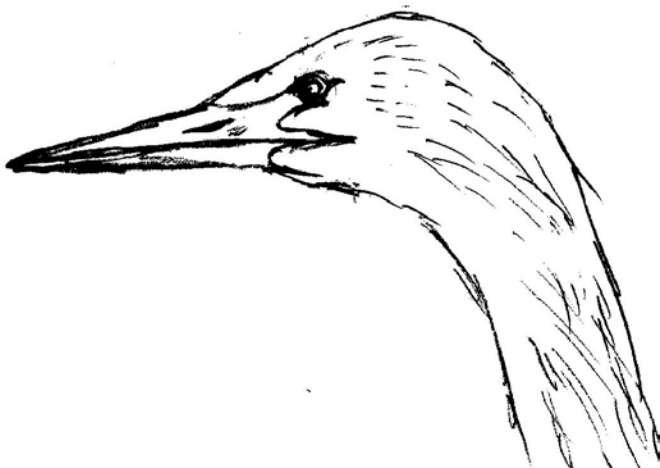
西村 四郎 小野 新子 参加者 16 名 (会員 12 名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カ  
ルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシ  
ハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、  
カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサ  
ギ、オオバン、ケリ、シロチドリ、ミヤコドリ、タ  
シギ、ダイシャクシギ、ハウロクシギ、ツルシギ、  
ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、ハシボソガラ  
ス、ツバメ、ツグミ、ホオジロ 計 32 種

五主池にもフロート式ソーラーパネルが設置さ  
れてしまい、環境の悪化が進んでいます。

それでも大池 (北) には今年もツルシギがやっ  
てきました。オオハシシギも 3 羽きていましたが、探  
鳥会には姿がなく残念でした。

雲出川河口では、ダイシャクシギやハウロクシ  
ギ、ミヤコドリはでてくれましたが、小型シギがい  
なくて淋しかったです。



ダイサギ

### ● 五十鈴川上流探鳥会

2017 年 4 月 15 日 (土) 6:30 ~ 8:30

伊勢市 五十鈴川上流

中西 章 参加者 13 名 (会員 9 名)

カルガモ、キジバト、カワウ、イカルチドリ、サシ  
バ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、  
ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エ  
ナガ、メジロ、クロツグミ、シロハラ、キビタキ、  
キセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、  
イカル、ホオジロ 計 24 種

天気にも恵まれ、新緑の木漏れ日の中、五十鈴川  
のせせらぎと鳥のさえずりを聞きながらの探鳥会  
でした。

ちょうど鳥にとっては端境期でしょうか。冬鳥の  
シロハラやアトリと、夏鳥のキビタキやサシバが同  
時に観察できました。ただ、ここ数年オオルリの姿  
がないのが残念です。

### ● 志原川及び水田探鳥会

2017 年 4 月 16 日 (日) 9:00 ~ 12:00

南牟婁郡御浜町 志原

中井 節二 清水 勝海 参加者 8 名 (会員 6 名)

キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダ  
イサギ、チュウサギ、ヒクイナ、ムナグロ、コチド  
リ、タシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、カワセミ、  
アリスイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、  
ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、  
ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、  
タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、ホオアカ、カシ  
ラダカ、アオジ、コジュケイ 計 35 種

遠い所から来てくれた方が多く、まだ少し残っ  
ている冬鳥のツグミ、タヒバリ、カシラダカなど見て、  
旅鳥のムナグロなどいました。

最後にノビタキの♂の夏羽を見て、みなさん大感  
激でした。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2017 年 4 月 23 日 (日) 9:00 ~ 12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 25 名 (会員 18 名)

キジ (1)、マガモ (1)、カルガモ (12)、ハシビロガモ  
(7)、コガモ (60)、ホシハジロ (13)、キンクロハジロ  
(6)、カイツブリ (1)、キジバト (2)、カワウ (100)、  
アオサギ (5)、ダイサギ (5)、チュウサギ (2)、コサ  
ギ (5)、オオバン (4)、ケリ (15)、ムナグロ (14)、コ

チドリ (5)、オオソリハシシギ (2)、タカブシギ (1)、イソシギ (2)、ウズラシギ (2)、トビ (1)、オオタカ (1)、カワセミ (1)、ハシボソガラス (120)、ハシブトガラス (10)、ヒバリ (15)、ツバメ (5)、ヒヨドリ (25)、ウグイス (3)、セッカ (1)、ムクドリ (5)、ツグミ (5)、スズメ (40)、ハクセキレイ (1)、カワラヒワ (5)、ホオジロ (5)、ドバト (20) 計 39 種

快晴であったためか、たくさんの人が参加してくれました。カモ類もまだ残っていて、今年は遅くまでいるねと話しました。水田にムナグロ、ウズラシギ、オオソリハシシギ、タカブシギが入っていました。

### ●県民の森探鳥会

2017年4月29日(土) 9:30～12:05

三重郡菟野町千草 三重県民の森

矢田 英史 参加者 28名(会員 17名)

カワウ、サシバ、コゲラ、サンショウクイ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ、ノジコ、エゾムシクイ 計 21 種

新緑の県民の森をゆっくり観察した。ウグイス、メジロ、キビタキなどのさえずりは、聞こえて来るが、木の葉ごしや枝にかくれて姿はほとんど見えない。サシバ、サンショウクイ、ヒヨドリ、メジロ等をおぼろげに観察する。コース途中で見なれない鳥をしばし観察する。アイリングや羽根などからノジコと判断し、画像によって確認した。

### ●瀬戸林道探鳥会

2017年4月30日(日) 9:30～12:00

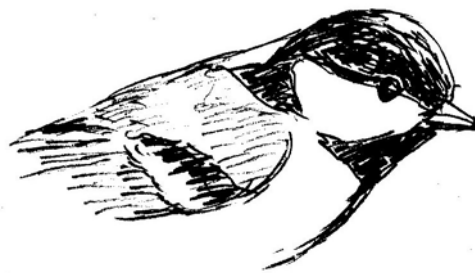
津市美里町桂畑 瀬戸林道

奥山 正次 石原 宏 参加者 18名(会員 16名)

キジ、キジバト、アオサギ、ツツドリ、トビ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、クマタカ 計 28 種

快晴で暖かく、絶好の探鳥会日和でした。林道を歩き始めて間もなく、クマタカが上空で歓迎してくれました。やがて高圧線の鉄塔に留まって静止。じっくりと観察できましたが、クマタカも私たちの様子を観察していたのでしょうか。

帰路で、橋の下に営巣しているイワツバメを観察しに行きましたが、あいにく離れた場所で採餌中のようで数羽しか見られませんでした。



シジュウカラ

### 編集後記

新しい編集ソフトにもだいぶ慣れてきた。専門の印刷業者が使うソフトだけあって、結構複雑である。新しい操作をおぼえるのはそれなりに楽しみがある。しかし、よく考えてみると誰かが作ったシステムに到達するだけである。所詮他人の開拓した物の後を追うだけであり、なんら創造的な仕事ではない。それに比べると野外で鳥を見ることは創造とは言えなくとも、誰も見てこなかった事象を新たに記録することになり、発見である。発見は発明と共に人類の進歩として重視される。もっとも、誰かに教えてもらって、その鳥を見に行くとか、写真を撮るのではなんら創造的ではない。

そう思いながら、ついつい、編集ソフトを色々いじくりまわしてみる。迷路に入るようなものである。ともあれ、これまでより、読みやすく、レイアウトもそれなりに良くなり、その点では嬉しい。今編集は3人だが、人手が足りない。手伝ってくれる会員があれば大歓迎である。(M.H.)

しろちどり 92号

2017年7月10日発行

題字:濱田 稔

表紙絵:小野 新子

カット:平井 正志

編集:平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所:日本野鳥の会三重

平井 正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印刷:株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市